

# 患者との対話 ラップに

豊郷病院(豊郷町)精神科の作業療法士として働きながら、現役のラッパーでもある。精神疾患がある患者と接して感じたことをラップにして歌っている。

大津市出身。中学生の時からヒップホップが好きだったが、ラップは遊び程度だった。大学を中退し、1年ほどニート生活を送ったこともある。

けがで入院したときに、看護師に医療関係の仕事を勧められた。自分で調べるうち、リハビリや活動を通じて患者の生活を良くする作業療法士に興味をもった。アルバイトで学費をた

作業療法士兼ラッパー

## 佐々木 慎さん(30)



作業療法士兼ラッパーの佐々木慎さん(左)と田中孝史さん=彦根市山之脇町

め、22歳で専門学校へ。その後、夢をかなえた。24歳の時、母を乳がんで亡くした。「やり場のない悲しみを表現したい」と思い、浮かんできたのがラップだ(38)と活動を始めた。田中

ひま@「ラッパ」へ

### 「幻覚や妄想があったらダメなのかな？」

さんは「作業療法士同士なので、歳は離れているが自然と互いの気持ちも通じる」と信頼を寄せる。

各地のラッパーを見て、愛や夢などを歌うのがラップの王道だと思っていた。

「同じように勝負しても自分は勝てない」。自分にか歌えないものを探し、精神疾患の患者との日常を詞を書くことと決めた。

精神疾患がある人は誤解を受けやすいと思う。でも、実際に病院で接している人たちはとてもビューアな心を持っているという。

「妄想」「幻覚」などの精神疾患の症状にばかり目を向けるのではなく、その人がなぜ精神疾患をもつようになったのか、根底にある過去の経験に目を向けることを大切にしている。

♪「幻覚や妄想があったら本当にその人はダメなのかな？」

そこに至るまでに何かあったんじゃないか それを考える努力をした

昨年1月、インターネットに配信した「僕にできること」作業療法士として「のブリーズ」病気ではなく、その人自身と対話し、共に歩みたいという素直な思いを歌につづった。

関西を中心にライブ活動をする傍ら、中学校でも講演とライブを依頼される。今後は精神疾患を抱えた人から思いを聞き取り、当事者の「思い」を歌った曲を作りたという。ライブ、講演依頼やCD販売はメール(077shini1988@gmail.com)。(石川友恵)